

アフガン女子代表、来月広島へ

アフガニスタンのサッカー女子代表チームが9月、広島にやって来る。内戦や米国の軍事介入による被害からの復興の途上であり、男性優位の国でサッカーに打ち込む女性を支援するため、国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所が招く。一行は平和記念公園で被爆証言に耳を傾け、女子サッカーなでしこリーグ2部、アンジュヴィオレ広島と親善試合をする。

選手15人と監督らスタッフ5人の計20人が、15日に広島入りする。原爆資料館の見学や被爆

サッカーユニタールが招待

者との面会のほか、平和構築やリーダーシップなどについて研修を受ける。アンジュヴィオレとは一緒に練習し、20日に親善試合をする。J1サンフレッチェ広島や広島東洋カープの公式戦を観戦。22日に広島を離れる。

ユニタールは2003年から毎年、同国の政府職員の研修を受け入れている。広島で学んだ人材はこれまでに約450人に上り、被爆地の復興の姿に母国の未来を重ね合わせる。

女子サッカーの代表チーム

平和公園訪問・アンジュと対戦

は、国際サッカー連盟(FIFA)ランキング132位。広島に来る選手はほとんどが大学生とみられ、5人は海外で学んでいるという。

ユニタール広島事務所の隈元美穂子所長によると、タリバン政権時代は女性は十分に教育を受けられず、今もなお差別が根深い。スポーツをする女性を非難する人たちも少なくないとされる。

隈元所長は「スポーツには人を団結させる力がある。命を懸けてサッカーをする彼女らはアフガニスタンの希望の星。全力で迎えたい」と話している。

(増田泉子)

24 August, 2015 Chugoku Newspaper

Women Afghan soccer team will arrive in Hiroshima next month.